

産業成長戦略の第1四半期の進捗状況等

分野： 水産業分野

戦略の柱： 漁業生産の構造改革

取組方針： 効率的な沿岸漁業体制への転換、日本一の種苗生産・中間育成拠点の形成、新規漁場の開拓

【概要・目的】

生産性の高い漁業への構造改革を進めるとともに、人工種苗量産体制の確立などにより養殖生産ビジネスの拡大を図る。また、新たな漁場の開拓に取り組む。

平成29年度の当初計画（P）

1. 効率的な沿岸漁業生産体制への転換

(1) 漁業経営の効率化

- 就業時の設備投資、資金調達への支援
 - ・市町村や地元漁協との情報共有、研修生のニーズ把握（～3月）
 - ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業による漁船取得の支援（～3月）
 - ・漁船導入支援事業及び沿岸漁業設備投資促進事業による漁船等の取得支援（～3月）
- 黒潮牧場15基体制の維持
 - ・沖ノ島沖11号の更新、H30年度更新予定の安芸沖14号、中芸沖17号の設計
- 定置網漁業の安定的な経営体制の確立
 - ・定置網の小規模改良試験の実施
 - ・リアルタイムブイの設置による潮流解析の高度化と急潮予測及び注意喚起手法の検討
- 既存養殖業の振興
 - ・民間企業等の新規参入による生産量の維持・拡大

2. 日本一の種苗生産・中間育成拠点の形成

(1) 人工種苗量産体制の確立

- クロマグロ
 - ・人工種苗生産委託による養殖現場への種苗の安定供給と普及促進
 - ・中間育成漁場の確保及び施設整備を支援
- カンパチ
 - ・更なる品質の向上による販売促進と人工種苗のシェア拡大
- (2) 試験研究機関の充実・強化
 - ・水産試験場古満目分場を活用した餌料用ふ化仔魚の供給技術開発

3. 新規漁場の開拓

(1) 定置網や養殖の遊休漁場等の活用

- ・民間事業者等の養殖業や定置網漁業などへの参入による生産量増大と雇用の確保

【計画を進めるに当たってのポイント】

1. 黒潮牧場の最適配置に向けた漁業者間の合意形成
2. 定置網漁業の経営安定に向けた網成り調査の実施や急潮予測システムの確立
3. クロマグロ、カンパチの人工種苗のシェアの拡大
4. 遊休漁場の再開に向けた地元調整と事業者の探索

平成29年度上半期の取り組み状況（D）

1. 効率的な沿岸漁業生産体制への転換

(1) 漁業経営の効率化

- 就業時の設備投資、資金調達への支援
 - ・漁船導入支援事業での漁船取得：6名が交付決定（4/13 黒潮町1名、4/21：土佐清水市3名、5/1：宿毛市1名、6/2：奈半利町1名）※4名が新規就業者
 - ・沿岸漁業設備投資促進事業での漁船用設備取得：3名の設備投資計画が認定（8/3 土佐清水市2名、8/7 田野町1名）
- 黒潮牧場15基体制の維持
 - ・平成30年度水産基盤整備事業（設計：16号（室戸岬） 更新：14号（安芸沖）、17号（中芸沖））に係る概算要求ヒアリング（5/31 水産庁）
 - ・黒潮牧場14号（安芸沖）、17号（中芸沖）の設計に着手（6月）
 - ・土佐黒潮牧場管理運営委員会を開催（7/6）し、黒潮牧場の利用状況、同委員会の収支報告見込み等を報告
- 定置網漁業の安定的な経営体制の確立
 - ・昨年度の網成り調査事業の結果を受け、2か所（羽根、窪津）の定置網で小規模改良試験を実施予定。1か所（伊佐）で新たに調査事業の要望があり、実施を検討中
 - ・水産試験場が急潮発生の注意喚起を2回実施（4/28、6/28）、いずれもその後急潮が発生
 - ・潮流計を須崎（7月）と羽根（9月予定）に増設
- 既存養殖業の振興
 - ・民間企業による養殖業への新規参入に関する計画を地元協議し合意が得られた（7月）
- 機械化・IoT化による漁業生産性の向上
 - ・機械化・IoT化の現場ニーズの掘り起こし（～7月）
 - ・水産業生産性向上PTにて、ニーズの情報共有と開発提案に向けた素材の絞込みを実施（7/27）

2. 日本一の種苗生産・中間育成拠点の形成

(1) 人工種苗量産体制の確立

- クロマグロ
 - ・中間育成を民間企業へ委託（6月）し、計18,000尾を沖出し
 - ・上記事業で用いる中間育成漁場（大月町一切・柏島）の免許交付（7月12日）
- カンパチ
 - ・民間企業が4月から種苗生産を行い、17万尾を沖出しし、5万尾を出荷

(2) 試験研究機関の充実・強化

- ・水産試験場古満目分場の施設整備と餌料用ふ化仔魚の供給技術開発試験の準備を実施

3. 新規漁場の開拓

(1) 定置網や養殖の遊休漁場の活用

- ・定置網や養殖の遊休漁場再開・新規参入に向けた事業者の探索を継続

見えてきた課題・改善策と下半期の主な取り組み（C、A）

見えてきた課題・改善策

1. 効率的な沿岸漁業体制への転換

(1) 漁業経営の効率化

- 就業時の設備投資、資金調達への支援
 - ・漁船の入手が困難（中古漁船の入手が困難、造船所は受注増で生産枠が満杯）
- 定置網漁業の安定的な経営体制の確立
 - ・リアルタイムブイを活用した潮流データの即時収集による急潮予測体制の確立
- 既存養殖の振興
 - ・民間企業等の新規参入や規模拡大による生産量の維持・拡大

2. 日本一の種苗生産・中間育成拠点の形成

(1) 人工種苗量産体制の確立

- クロマグロ
 - ・新法人による中間育成漁場の円滑な運用

(2) 試験研究機関の充実・強化

- ・水産試験場古満目分場の円滑な運用によるクロマグロ等生産体制の強化

下半期の主な取り組み

1. 効率的な沿岸漁業体制への転換

(1) 漁業経営の効率化

- 就業時の設備投資、資金調達への支援
 - ・漁船導入支援事業及び沿岸漁業設備投資促進事業による漁船等の取得支援
- 定置網漁業の安定的な経営体制の確立
 - ・小規模改良試験の実施
 - ・リアルタイムブイの設置（高岡）
- 既存養殖の振興
 - ・民間企業の養殖業への新規参入の実現

2. 日本一の種苗生産・中間育成拠点の形成

(1) 人工種苗量産体制の確立

- クロマグロ
 - ・生産委託による人工種苗の量産を実施

(2) 試験研究機関の充実・強化

- ・水産試験場古満目分場を活用した餌料用ふ化仔魚の供給技術開発試験を実施

3. 新規漁場の開拓

(1) 定置網や養殖の遊休漁場等の活用

- ・民間事業者等の養殖業への参入支援と、遊休漁場等を活用する新たな事業者の掘り起こし

【平成31年度末の目標（H29到達目標）】

1. 黒潮牧場15基体制の維持 = H31：黒潮牧場の年平均漁獲量1,500トン以上<H29：黒潮牧場での漁獲量1,500トン以上（H24-H26平均比±0）>
2. 定置網漁業の安定的な経営体制の確立 = H31：漁獲量16,400トン以上、急潮予測手法の開発<H29：リアルタイムブイを活用した急潮予測手法の検討>
3. クロマグロの沖出し尾数 = H31：3万尾<H29：3万尾（H27比2.9万尾）>
4. 試験研究機能の充実・強化 = H31：新たな試験研究機関の活用による養殖業の振興<H29：クロマグロ人工種苗生産に用いる餌料用ふ化仔魚の供給と施設整備の実施>
5. 定置網や養殖の遊休漁場等の活用 = H31：2か所以上の定置網等の遊休漁場を事業承継等<H29：1か所以上新たに生産現場へ参入>

【直近の成果】

1. 黒潮牧場15基体制の維持 : -
2. 定置網漁業の安定的な経営体制の確立 : 急潮発生注意喚起を県下全大敷に向け実施（4/28、6/28）
3. クロマグロの沖出し尾数 : 18,000尾（8/25）（※今後も増加予定）
4. 試験研究機能の充実・強化 : 水産試験場古満目分場の施設整備を実施
5. 定置網の養殖の遊休漁場の活用 : -

